

令和7年度 技術科学習案内

1【技術科の目標】

- 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係わる技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2【学習内容】

技術科の3年間の学習内容は、「A 材料と加工の技術」「B 生物育成の技術」「C エネルギー変換の技術」「D 情報の技術」を学びます。1、2年生は、家庭科と前後期に分かれて学習します。3年生は、家庭科と隔週で学習します。

3 3年間の学習計画

	1 学期	2 学期	3 学期
1 年	A 材料と加工の技術		
2 年	B 生物育成の技術 C エネルギー変換の技術		
3 年	D 情報の技術		

4【評価の観点と方法】

今年度より「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

「知識・技能」

学習の過程を通して知識及び技能の習得状況について評価をします。

「思考・判断・表現」

課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けているかどうかを評価します。

「主体的に学習に取り組む態度」

自らの学習状況把握し、学習の進め方に試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。

5家庭学習のしかた

授業は、作業が多いです。1回の授業では、完成しません。何か月も作業が続くことがあります。

完成するまで作品は、家庭に持ち帰れませんので、家庭では、授業の予習、復習を行ってください。

令和7年度 家庭科学習案内

1【家庭科の目標】

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次の通り育むことを目指しています。

- 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを倫理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う
- 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2【学習内容】

家庭科では次の3つの分野について3年間を通して学習していきます。

- 家族・家庭生活
- 衣食住生活（衣生活・食生活・住生活と細かく区切って学習します）
- 消費生活・環境

3【3年間の学習計画】

	1学期	2学期	3学期
1年	「家族・家庭生活」「衣生活」「住生活」		
2年	「食生活」「消費生活・環境」		
3年	「家族・家庭生活」「消費生活・環境」		

4評価の観点・評価方法

評価の観点	内容	評価の方法
知識・技能	家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けようとしている。	・定期試験の特典 ・調理器具、裁縫道具などの適切な扱い ・実技テスト ・実習の様子
思考・判断・表現	生活の中の課題を見だし、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを倫理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決しようとしている。	・定期試験の得点 ・ワークシートのまとめ・振り返り部分の内容 ・グループワーク内での発言内容
主体的、科学的に学習に取り組む態度	自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとしている。	・ワークシートのまとめ・振り返り部分の内容 ・課題へ取り組む態度 ・自身の生活を振り返り課題を解決し生活をよりよくしようとする態度

5 観点と評定について

4の《3つの観点ABC》の意味と、組み合わせと評定との関連

「十分満足できる」状況と判断 : A

「おおむね満足できる」状況と判断 : B

「努力を要する」状況と判断 : C

*授業参加の実態がほとんどなかったり、定期試験や実技試験等が未受験、提出物が出ていない等、評価の材料がない場合、評定不能の判断により、

評

定欄が斜線の場合があります。

*観点の内容による傾斜評価はありません。

観点別評価	評定
AAA	5
AAB	4
AAC ABB ABC BBB ACC BBC	3
BCC	2
CCC	1

6 道徳科との関連

家庭科の学習で身につける力	道徳で学習する態度
日本の伝統的な衣食住生活について学習し、日本の文化を継承しようとする態度を養う。	郷土の伝統と文化を大切にし、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める態度。
	優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者としてその発展に努める態度。

7 家庭学習のしかた

家庭科の授業は実生活に最も近い内容を取り扱います。暗記をしたりノートに書いたりして覚えるのではなく、普段の生活の中でふと疑問に思ったことや、もっとこうしたら快適なのに！と感じる機会を大切にしてください。それが家庭科の授業の中で扱う「生活の中の課題」に当てはまります。

また、学習したことを普段の生活で大いに活用してください。生活に役立ててこそその家庭科です。授業で学んでも、経験数を増やさなければ身に付けることはできません。将来の自分のために、自分の身の回りのことはある程度自分でできるようになることが、中学校3年間で家庭科を学習するうえでの目標です。ぜひ、家庭科の実践的・体験的な授業から多くのことを学んで、家族と一緒にそれを活用しながら皆さんの生活をよりよくしていきましょう。